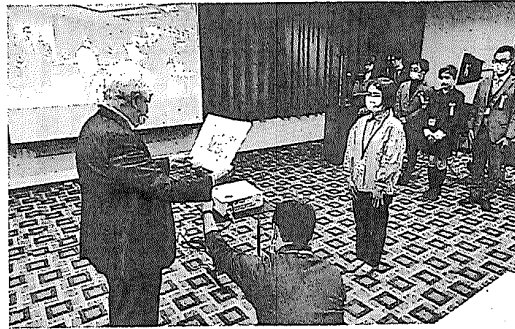


最優秀に片野真帆さん

『棚田から地域を元気に』

建九 夢アイデア交流会'21開催



まなアイデアを寄せていただき、私たちが暮らす社会が、安全で住みやすいものとなっていくことを期待している」と話した。

交流会は冒頭、田中支部長が「応募いただいた作品全てが、素晴らしいものばかりで、たくさん夢やアイデアが詰まっていた。本日発表される10人には、ぜひ自分の夢を語っていただき、参加者の皆さんを楽しませていただきたい」とあいさつし、プログラムがスタート。

今年で19回目となる夢アイデアには北海道をはじめ、東北や関東など多くの地域から46編の提案が応募。この日のプレゼンテーションでは、1次審査を通過した10編のアイデアについて、提案者から発表が行われた。また、一般の観覧はコロナ対策としてWEB方式で行われ、福岡市内の会場には、審査員や建コン協関係者とともに、発表

（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部（田中清支部長）は4日、福岡市内で「夢アイデア交流会2021」を開催した。交流会では1次審査を通過した提案者らが、自らの夢アイデアについてプレゼンテーションし、審査の結果、片野真帆さん（福岡県、会社員）が発表した「棚田から地域を元気に」が最優秀賞に選ばれた。写真。また、今年度は、夢アイデア部会の創設から20周年に当たることから、記念の式典も開かれた。

建コン協九州支部による「の取り組みは「夢のよきな話で、本気でしよび」をキャッチフレーズに、毎年、広く一般からアイデアを募集しているもの。

審査員や建コン協関係者とともに、発表者らが入室した。プレゼン後の審査では、最優秀賞に片野さんの提案を選ぶとともに、優秀賞には「ミラー輝さん（鹿児島市、小学5年生）の「子どもが安心・安全そして楽しむための公園改ざうプログラム」、石垣真名子さん（福岡県、作家）の『有人の無人駅』を活用した研究と生活の『乗り入れ』、村下雄三さん（福岡県、会社員）の「地域活動は若者とタッグアップ」トコンシユルジュ、廣瀬隆さん（福岡県、会社員）の「ねえ、知ってる？俺ん家って動くってばい、好きなまちへ自宅と一緒に引っ越そう」の4編を選定した。

講評では、各審査委員が「子どもと大人の目線の違いを気付かされた。まちづくりにはさまざまな世代の目線が必要なのだ」と、再認識させられた。「まちづくりの主役は市民であると、見つけ直す機会となった」「IT技術の進歩とともに、皆さんの描く夢も進化していることが、楽しくも嬉しくもあった」などと、発表者それぞれの提案を評価。審査委員長を務めた日野伸一九州大学名誉教授は、「来年以降も、多くの方に、まな